

# がんから 身を守ろう

【表1】がんの要因

リスク要因	リスク要因に関連付けられるがん
喫煙（能動）	口腔と咽頭、食道、胃、結腸直腸、肝臓、すい臓、喉頭、肺、子宮
受動喫煙	肺（非喫煙者）
飲酒	口腔と咽頭、食道、結腸直腸、肝臓、女性の乳房
過体重と肥満	結腸、すい臓、閉経後乳がん、子宮内膜、腎臓
運動不足	結腸、乳房、子宮内膜
野菜不足	食道、胃
果物不足	食道、胃、肺
塩分摂取	胃
感染	
ピロリ菌	胃（非噴門部）、胃 MALT リンパ腫
C型肝炎ウイルス(HCV)	肝臓
B型肝炎ウイルス(HBV)	肝臓
ヒト・パピローマ・ウイルス(HPV)	口腔、中咽頭、肛門、陰茎、外陰部、膣、子宮頸部
I型ヒトT細胞白血病ウイルス(HTLV-I)	成人T細胞リンパ腫 / 白血病(ATL)

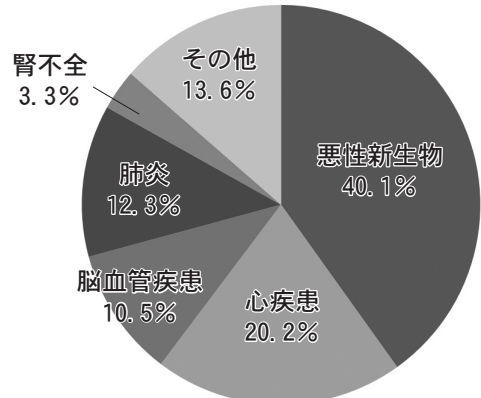
国立がん研究センターがん予防・検診研究センターより

【お問い合わせ】 ふれあいセンター ☎ 2000

がんは、「遺伝子の病気」です。人の体は、細胞が体や周囲の状態に応じて増えたり、増えることをやめたりしてできています。その細胞は遺伝子によって設計されており、正常な遺伝子によって何らかの要因によって傷ついて変異し、変異した遺伝子からがん細胞が発生します。がん細胞は、勝手に増殖し、大きくなった細胞集団が「悪性腫瘍（がん）」となります。

がんの要因【表1】は、遺伝子変異を起させる要因であることから、がんは「遺伝子の病気」ともいえ、生活習慣などによって引き起こされています。

【図1】道内における死因別死亡者の割合



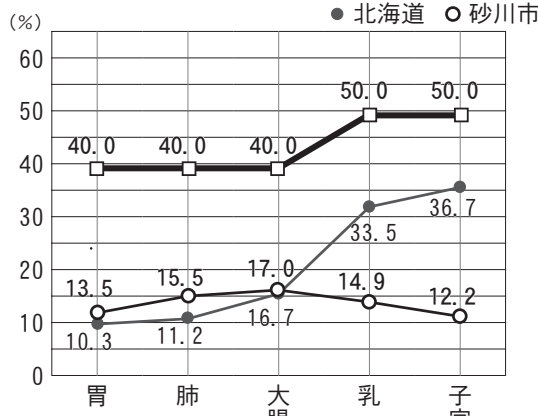
平成27年版空知地域保健情報年報(平成26年度実績)

北海道においては、全国と比較してがん死亡率が高く、死因別の割合【図1】を見ても、約4割を悪性新生物（がん）が占めています。

その要因としては、喫煙率が高いことやがん検診受診率が低いこと、日常生活の中で自家用車の使用が多く、運動不足による肥満傾向があることなどが、がんを誘発させる一因と考えられています。

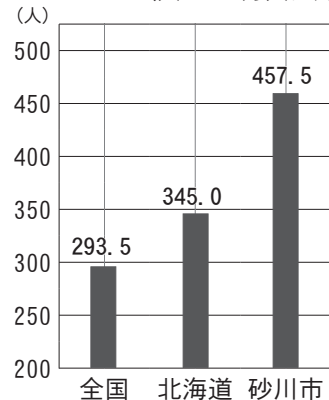
このような背景から、北海道では、平成24年4月に「北海道がん対策推進条例」を施行し、がん対策を総合的かつ計画的に推進していくことが打ち出されました。市においても、がん対策の一環として、平成29年4月に「がん対策推進条例」を施行し、がんの予防の推進、がんの早期発見の推進などに取り組んでいます。

【図3】がん検診の受診率



平成27年度地域保健・健康増進事業報告(平成26年度実績)

【図2】悪性新生物による死亡者割合 (人口10万人に対して)



平成27年版空知地域保健情報年報(平成26年度実績)

砂川市においては、悪性新生物による死亡者割合【図2】は北海道と比較しても高い状況です。また、がん検診の受診率【図3】は、個別目標としている数値には程遠い状況で、がんの早期発見へ一人一人が対策を考えなくてはなりません。

がんで命を落とさないために  
さまざまな取り組みを行っています

「都合に合わせて受診できます」

働いている人でも受診しやすいよう、がん検診の集団検診日を土曜日または日曜日に設定しています。

また、平日でも市立病院で子宮がん・乳がん・大腸がん検診が受けられる体制を整えています。集団検診の日程では都合が悪い、受け損ねた場合など、集団検診と同額の費用で受けられます。

職場や企業でがん検診を行っていない方はぜひ受診をご検討ください。また、市民を対象に約6割の検診費用を補助しています。

ピロリ菌検査の実施

将来の胃がんを予防するために、中学2年生の希望者を対象に尿検査によるピロリ菌検査・除菌治療を行っています。昨年は、6人が除菌治療につながりました。この検査および除菌治療の費用は、全額市が負担します。

また、今年度から、成人の方でも胃がん・肺がん・大腸がん検診の日程に合わせてピロリ菌検査（検便検査）を受けることができます。20歳～39歳の方は、ピロリ菌検査のみの受診ができ、40歳以降の方は、胃がん検診対象年齢のため、胃がん検診を受診する方が受診できます。（3,240円の自己負担となります）

なぜピロリ菌検査をするの？

ピロリ菌は、主に5歳ごろまでに感染し、胃の中にずっと住み続けます。

ほとんどの方は、自覚症状のないまま感染が続くことで胃炎が進行し、萎縮性胃炎（胃の粘膜が薄くなる）になり、胃潰瘍や十二指腸潰瘍を引き起こします。しかし、一番の問題は、胃炎の進行によって胃がんが将来発生する危険があることです。

日本で発見される胃がんの99%は、ピロリ菌感染によるものです。感染経路についてはまだはっきりとわかってはいませんが、口からピロリ菌が胃内に入り込むとされており、8割以上は家庭内感染とされています。例えば、ピロリ菌を持っている親が使用した箸で子どもに食べさせるなどが考えられます。

ピロリ菌の除菌治療を行うことで、胃炎や潰瘍の症状は良くなり、胃がんも予防できます。特に感染して間もない中高生が除菌をすることで、将来の胃がんの予防効果がより確実になります。大人の方も胃がん発生のリスクが激減しますので、ぜひ検査の受診をご検討ください。

検診の日程などは、広報すなわ4月1日号折込の「砂川市各種健（検）診等の日程表」をご覧ください。



無料クーポン券の発行

20歳～60歳の対象年齢の方に、子宮がん検診または乳がん検診の無料クーポン券を発行しています。

●対象年齢（いずれも年度年齢）

- ・子宮がん検診
- 21歳、26歳、31歳、36歳、41歳
- ・乳がん検診
- 41歳、46歳、51歳、56歳、61歳

また、クーポン券の対象となっていない方でも、子宮がん検診は20歳から、乳がん検診は40歳から毎年受診できます。

※ ピロリ菌検査および無料クーポン券発行の対象年齢は、すべて年度年齢（平成31年3月31日現在の年齢）で表記しています

市制施行 60 周年記念事業  
**がんを考える講演会・第 32 回がん市民講座**

～がんについて、ご家族やご友人と一緒に考える時間にしてみませんか？～

入場無料！  
申込不要！

▶と き 6月23日(土) 午前10時～正午（開場午前9時40分～）

▶と ころ 地域交流センターゆう ミニホール

▶内 容 講演1「もしかして私も？乳がんて命を落とさないための検診と治療」

砂川市立病院 乳腺外科部長 細田 充主 医師

講演2「胃がん、大腸がんは確実に予防できる！

～大切な人を失わないために知っておくべきこと～

国立病院機構函館病院 消化器科部長

消化器病センター センター長

がん予防センター センター長 間部 克裕 医師

